

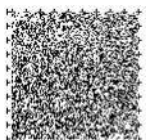
JOURNAL

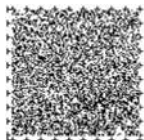


Contents

- 事業紹介… **男女共同参画とメディア・リテラシー** 2
- 学生と社会人のワールドカフェ 2
- 特集…… **くるめフォーラム2016**
- 男女平等社会づくり「人」「ひと」の尊重 平和なくらし
- 記念講演「女性が活躍する社会に向けて 3
- ～私が伝えてきたこと、いま伝えたいこと～
- 市民企画・映画 実行委員会の活動 4・5
- 事業紹介… **女性に対する暴力をなくすキャンペーン** 6
- 働く女性の就業継続支援講座 6
- 相談室だより… **子どもが受ける「面前DV」** 7
- 男女平等政策課からのお知らせ… **オレンジ&パープルリボンキャンペーン** ... 7
- 登録団体紹介… **あいたた倶楽部** 8
- 図書情報ステーション… **労働問題** 8

2016
vol.54





男女共同参画とメディア・リテラシー

～自分らしく生きるために、メディアを読み解く力をつけよう！～

メディア・リテラシー講座（8月28日）

講師 高崎 恵 さん（オフィスピュア）

私たちは生活の中で多くの時間をメディアに触れて過ごしています。この講座ではメディアの中で描かれる男性像・女性像がもたらす私たちの行動や価値観について考えました。

講師の高崎さんの説明の後、アニメーションの一部を視聴し、男性と女性がどのように描かれていたか細かく見つけ出し、グループごとに考えたことを話し合いました。

「何気なく見ているアニメーションの中に、男性は弱音を言わず強くたくましい存在として、また女性は守られていて、美しさだけが強調される描かれ方に改めて気が付いた」との声が多くあがりました。

アンケートでは「幼い頃から見るとアニメに暴力が含まれているので気になっていた」「もっとメディア・リテラシーを学びたいと思った」という感想がありました。



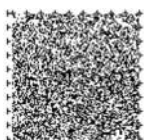
「働く・結婚・子育て」をテーマに学生と社会人がワールドカフェ!

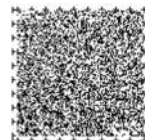
これからの自分をデザインする!～働くこと・生きること～(11月12日)



これから社会に出る学生を対象に、仕事や結婚・子育てなどちょっと先の将来について語り合い、固定的性別役割分担意識にとらわれず、自分らしく生きる・働くことについて理解を深める学生と社会人のワールドカフェを開催しました。コーディネーターは福岡女子大学准教授の和栗百恵さん。市内の大学を中心に約50名の学生が参加。社会人は新聞記者や地域デザイナー、システムエンジニア、銀行員、会社員、行政職など16名のみなさんにご協力をいただきました。各テーブルでは社会人を囲んで、学生がテーブルに着き「働くって」「働くことと『成長』『困難』」「生きる・働く～趣味、ライフステージ」などといったテーマで、席替えを繰り返しながら意見交換をしました。学生は、他の学生と話すことで同世代でありながら考え方の違いに気づき、また社会人との会話では働くことへの意味や目的などを感じ取ったようです。「女性は仕事に対してその仕事のみではなく、ステージを変えることができる、というプラスの側面に気付くことができ、「固定観念」をなくすことも大事だということが分かった」

「結婚後の男性としての生き方について大きく学んだ。イクメンという言葉があるが、女性もこれからは社会進出していく時代でありイクメンは今後より増えてくるように思う。女性を休ませ、男性だけで子どもと触れ合うという機会等は今後より活発になればいいと思う」などの感想が寄せられ、これからの自分をデザインするヒントをたくさん得たようでした。





久留米市では、一人ひとりの人権が保障され、個性を尊重する男女平等な社会をつくるため、昭和63年10月1日に「久留米女性憲章」を制定しました。そして平成元年に、制定日の10月1日からの1週間を「久留米女性週間」と定め、その記念事業として「くるめフォーラム」を毎年実施しており、今年で28回目を迎えました。

今回のテーマ『「人」「ひと」の尊重 平和なくらし』には、性別や年齢等に関係なく、誰もが平等で、自分らしく生きることができ、そして安心して暮らせる平和な社会を実現したいとの思いが込められています。

記念講演

女性が活躍する社会に向けて ～私が伝えてきたこと、いま伝えたいこと～

くにや ひろこ

講師 国谷 裕子さん（キャスター）



このレポートは10月2日に行われた講演の一部を要約したものです。

《女性たちと繋がって》

この3月までクローズアップ現代のキャスターを23年間担当してきました。社会をみつめる仕事に携わって強く実感するのは女性が活躍できる仕組みが作られているかということであり、大切なことは女性の声が、地域や社会、経済、企業に反映されることです。

ある女性たちの国際会議への参加が契機となり、私は社会のあらゆるテーマを取り扱ってきた番組に女性の声が反映されていないことに気づきました。問題を共有する女性たちが声をあげ解決策を探れば、競争力や成長の原動力になれるかもしれないという思いから、私は女性たちと繋がり、様々なアイデアや考え方を参考に、番組への提案をするようになりました。私が番組で発信していくうちにNHK内部にも組織的な変化が生まれ、次々と女性たちが部署を越えて繋がっていくようになりました。今では女性たちの声が形となって、NHKにも保育所が設置されています。

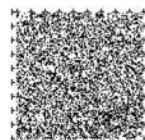
《女性たちが活躍できる環境づくり》

ある日本企業の女性役員から「我が社は女性たちを『賢いイルカ』と例えて見ている。イルカ(=女性)をいきなりサメ(=男性)の群れの中に入れてしまうと死んでしまうかもしれないので、最初はサメの群れから隔離し、まずはイルカに成功体験をさせている。そして、イルカが泳ぐ術を習得する等自信をつけさせてから、サメの群れの中に戻すようにしている。」との話を聞きました。以前は、女性たちが昇進するには「サメになれ!(=男性と同じように働けるようになれ)」という考え方が一般的で、サメになれた女性たちだけが生き残る社会でした。しかし女性も男性と同じように、働くことに自信を持つことができれば、個性や能力、感性を活かせるのではないのでしょうか。そこにはイルカの後押しをしてくれる企業や組織の風土が必要なのかもしれません。

人間は失敗を経験すると強くなり、何とか次は成功させてやろうという気になるものです。企業の中に「恥をかくことを恐れず積極的に発言してもいい」という仕組みができれば、多くの女性たちは一歩ずつ階段を上っていけるのではないかと思います。

《女性たちの声が反映される社会へ》

「私はなりたくない」「できない」と言っていた女性たちが、いざ管理職のポストに就いた時「見える風景が変わった」「なってよかった」という声を聞くことがあります。私はひとりでも多くの女性が、それまで見るができなかった風景を見てもらいたいと思います。また、女性たちが繋がり、自ら積極的に声を上げてほしいと思います。そして女性たちの声が反映される社会になることを願っています。



特集

久留米女性週間記念事業

くるめフォーラム2016

9月23日(金)~10月7日(金)

男女平等社会づくり

「人」「ひと」の尊重 平和なくらし



「くるめフォーラム2016」は、市内33団体・グループを中心に、総勢45人からなる実行委員会が結成され、9ヶ月かけての準備が進められました。

期間中は、記念講演、映画、展示・バザー、市民企画団体による講演会等が行われ、多くの人々が男女共同参画について考える機会となりました。



映画

「愛しき人生のつくりかた」

2015年フランス 出演：アニー・コルディ

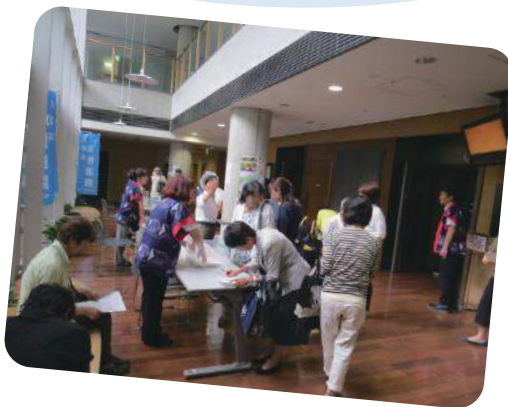
実行委員会の主な活動内容



パンフレットやチラシの作成、発送準備も、実行委員の手で行います。



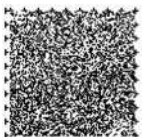
実行委員会は、性別や年齢等、様々な人が参画し、企画・運営等について何度も話し合いを行い決めていきます。



会場設営や当日の受付は実行委員全員で担当。忙しさの中にも楽しさとやりがいを感じます。



当日は、会場入口でチラシ配りや会場案内を行いました。



久留米市の農業をもっと元気にするために
～1人でも多くの女性農業委員を～
講師:中嶋玲子
(久留米市男女平等政策審議会会長)



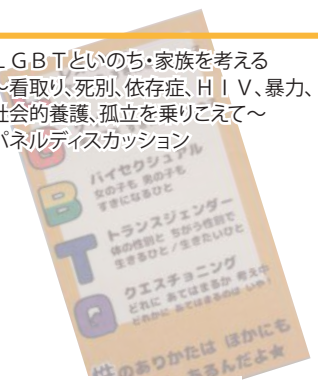
久留米男女共同参画推進ネットワーク

暮らしと男女平等の 今
講師:遠藤雄二(九州大学大学院教授)



女問研

LGBTといのち:家族を考える
～看取り、死別、依存症、HIV、暴力、
社会的養護、孤立を乗り越えて～
パネルディスカッション



あいたた倶楽部

これって恋愛?『元気がなくなる恋愛』
それって「DV恋愛」です!
講師:伊田広行(立命館大学非常勤講師)



さぼちやい

市民企画

14の市民団体が工夫を凝らし、男女平等をテーマに講演会、ワークショップ、替え歌合唱などを行いました。

充実した高齢者福祉を!
～尊厳ある生き方を担保するために～
講師:賀戸一郎(西南学院大学教授)



高齢社会をよくする会・久留米

歌いとばそうジェンダー
歌いあげよう自分らしい人生!



S・ぱ～ぶるリボン

女性議員を増やそう
～ジェンダー・クォータ制をめざして～
講師:申琪榮(お茶の水女子大学院准教授)



北京 JAC 久留米

若者と語ろう
～18歳からの参政権行使を機に～
パネルディスカッション



リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
と環境を考える会

貧困・孤立～シングル女性の非正規問題
講師:野依智子(福岡女子大学副学長)



新日本婦人の会

女性の人権と平和
～女性がおかれている現状をふまえて～
講師:末永節子(ウイメン アクション福岡代表)



I女性会議 久留米支部

CAPさんの「デートDV予防」を体験しよう
ワークショップ



にじいる CAP

田主丸会場

女(わたし)と男(あなた)の思いが
地域を変える
講師:本田節(有)ひまわり亭代表取締役)



田主丸町ネットワーク

北野会場

「女性と子どもの貧困」
～私たちにできることは?～
講師:佐藤有里子(キャリアリード代表)



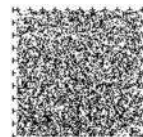
北野女性ネットワーク

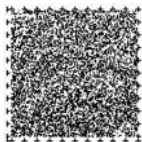
城島会場

熊本地震を経験して～震災後の女性・子ども
講師:八谷由香
(熊本大学キャンパスソーシャルワーカー)



城島女性ネットワーク





女性に対する暴力をなくすキャンペーン

国では、毎年11月12日から「女性に対する暴力撤廃国際日」である11月25日までの2週間を、「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間と定めています。この期間に久留米市男女平等推進センターで実施したキャンペーン事業の一部を報告します。



【講演会】 漂流少女に関わって (11月18日)

講師: 橘 ジュンさん(NPO法人BONDプロジェクト代表)
Kenさん(同法人統括)

ライターの私(橘)とカメラマンのkenは、街頭にいる若者取材し、そのリアルな声を雑誌で発信してきた。また、夜の渋谷や歌舞伎町をさまよう居場所のない多くの少女に出会ってきた。虐待、性被害、望まない妊娠、依存症、自傷行為など、少女たち

はいくつもの悩みを抱えてギリギリで生きていた。

2009年「聴く、伝える、繋げる」を目的に、10代20代の生きづらさを抱える女性のため支援団体「NPO法人BONDプロジェクト」を立ち上げた。SNSや面接相談、街頭パトロール、啓発活動、そして一時保護や自立に向けた支援活動を行っており、毎日、全国の少女から相談が寄せられている。「つらい、助けて」少女たちの叫びに気づく大人はまだ少なく、なぜ生きづらいのか、その背景を聴き、伝えることを私たちは大切にしている。

学校も家庭も幸せなのに、死にたいと思う17歳の少女。5年たってようやく、自身が親との関係に悩んでいたことに気付いた。親が望む「良い子」を装い感情を押し殺してきた日々が、少女を追い詰めていた。

家に親がいつも居なくて幼い頃の寂しさから援助交際をする少女やJKビジネスから抜け出せない少女も多い。性被害など深刻な問題を抱える子ほど相談に繋がらない。自分に危害を加える大人しか知らず人間不信であったり、親を悪者にしたくないから我慢したり、必要な情報が届いていない現実もある。なぜ相談に行けないのか、多くの人にこの漂流少女たちの実態を知ってほしいと思う。

少女たちが生きやすい社会をつくるためには、社会や人との繋がりをなくした少女たちの目線に合わせ、私たち大人から積極的に関わっていくこと、繋がる必要がある。

働く女性のための就業継続支援講座

「ブラック企業の実態 ～取材現場から～」 (10月11日)

講師: 竹次 稔さん(西日本新聞社 編集局 社会部記者)

ブラック企業とは、「新興企業で、若者を大量に採用し、過重労働・違法労働によって使いつぶし、次々と離職に追い込む成長企業」(ブラック企業被害対策弁護団)。若者・女性・高齢者・外国人・非正規労働者・下請けという「労働弱者」にそのしわ寄せが当たる構造となっている。労働者がワークルールを学び、社会としても「それはおかしい」という共通感覚を育てていくことが重要と話されました。



竹次 稔さん

「ここが聞きたい! 私の仕事と働き方」(10月25日)

講師: 松尾 佳子さん(田中・松尾法律事務所 弁護士)

平成29年1月1日に施行される改正男女雇用機会均等法及び、改正育児・介護休業法をもとに、事業者の義務についてや、妊娠・出産・育児休業等を理由とする不利益な取り扱い、職場におけるハラスメントやセクシャルハラスメントについて学びました。妊娠・出産等を理由とする不利益取扱として「解雇する」、「期間を定めて雇用される者について契約の更新をしない」、「降格させる」など、事例をとおしてわかりやすく説明していただきました。

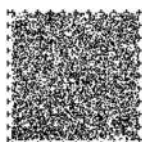


松尾 佳子さん

「チャレンジする女性たち」(11月8日)

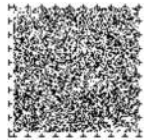
講師: 村山 由香里さん(株式会社アヴァンティ代表取締役社長)

日本社会の男女間格差の現状は144カ国中111位。福岡県の女性の就業継続を阻む要因の一番が「意識」の問題。男性の意識、続いて女性の意識、社会の意識と続いている。女性たちの歴史をみると、1980年代は「結婚退職が当たり前」。1990年代は一般職から総合職へ転換する女性の出現。2000年代は新卒で女性は「非正規雇用」。2010年代は「役員、管理職に女性を!」とトップが発言するなど、社会も大きく変わってきました。村山さんは「女性が活躍する社会は男性も生きやすい社会になる」と結ばれました。



村山 由香里さん

相談室だより



相談室には、平成28年4月～11月の時点で、約3,300件の相談が寄せられています。相談内容で一番多いのは夫婦に関する相談です。中でもDVが絡む問題が半分を占めています。身体的DVに限らず、精神的（モラルハラスメントを含む）、性的、経済的、社会的DVと内容はさまざまです。

相談者の多くは、相手を怒らせた自分が悪い、自分さえ我慢すればと耐え続ける一方、恐怖心や不安を抱えています。このような状況のなか、共に生活する子どもへの影響が問題視されています。

●子どもが受ける「面前DV」

子どもにDVを見せることは、面前（めんぜん）DVと言われており、児童虐待防止法では、心理的虐待と定められています。DVも児童虐待も重大な人権侵害です。面前DVは、その後の子どもの成長に影響を与えることが明らかになっています。暴力を使って、ものごとを解決することを子どもは学び、暴力を容認する考え方を身につけます。

●子どもたちに起きる影響

本来安心して暮らすはずの家庭の中に子どもの居場所がなく、十分な愛情を受けられない状況があります。DVがある家庭で育つ子どものなかには、自尊心が低くなっている子どもが多く見受けられます。

相談室では、DV家庭で育つ子どもたちと会う機会が多くあります。最初子どもたちは、表情も少なく目を合わせようともしませんが、安心できる環境や信頼できる大人に出会うことで、表情も豊かになり、子ども本来の笑顔を見せてくれるようになります。子どもたちの変化を目のあたりにしながら、DV問題の根深さを痛感しています。

相談室では、DV問題の他にも、ストーカー、セクハラ、性被害の相談も増えてきています。

相談室は、これからも女性の生き方支援を軸に相談者の気持ちに寄り添い、必要な支援と一緒に考える場所でありたいと思っています。

～男女平等政策課からのお知らせ～

オレンジ&パープルリボンキャンペーン

DV（ドメスティック・バイオレンス）、性暴力、売買春、人身取引、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害するものであり、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重要な課題です。

国は、11月12日～25日までの2週間で「女性に対する暴力をなくす運動」期間と定めています。

久留米市でも、この期間に様々な取り組みを実施しています。今回は、オレンジ&パープルリボンキャンペーンを紹介します。

「パープルリボン」は女性に対する暴力の根絶の象徴、「オレンジリボン」は子どもに対する虐待のない社会の実現を目指す象徴です。また、11月は「児童虐待防止推進



オレンジ&パープルリボン

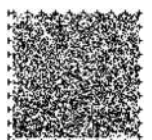
月間」でもあります。DVと児童虐待はそれぞれが重大な人権侵害であるとともに、密接な関係があります。DVを目撃することは子どもにとって心理的虐待に当たります。

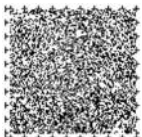
そこで、職員有志で「オレンジ&パープルリボン」を約3,000個作製しました。職員として子どもや女性に対する暴力は絶対許さないというメッセージを発信するとともに、市民の皆様へもこの運動の趣旨が広がることを願って、期間中全職員がこのリボンを着用しました。



平成28年度セーフコミュニティフェスタで、くるっばにもパープルリボンをつけてもらいました。

問合せ 男女平等政策課
電話番号 0942-30-9044
FAX番号 0942-30-9703





登録団体紹介④

あいたた倶楽部

「あいたた倶楽部」は、MMMダンス講師との出会いを機に、自らの健康な身体づくりと心の安定を図り、エンパワメントすることを目的に結成しました。

MMMダンスは、英国のダンサーであり理学療法士のマーガレット・モリスが考案した、背骨と呼吸法を重視したムーブメント&ダンスです。それを行う際に、身体の筋肉や関節を動かしていくと「あ、いたた」という声が出てしましますが、そう言いながらも自身の身体に向き合い、心身の健康を保とうという思いから「あいたた倶楽部」と名付けました。

身体に無理がないゆるやかな動きは、リラックス効果があり、硬直化していた身体のみならず、心もときほぐして緊張を緩めてくれます。日頃忘れがちな自分の身体に向き合うことは、自身の性や生き方にも自然と向き合うことになり、その過程のなかで、多様な考え方があることに気づいていきました。それは、性的マイノリティとされているLGBTについても考えるきっかけになり、5年前からくめフォーラムにおいて、LGBT当事者の方を講師

※LGBT…レスビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(心と体の性が一致せず違和感を持つ人)の頭文字をとった総称

に招き、講演を企画開催しています。

この活動を通して、LGBTが特別なことではないにもかかわらず、今の社会の中では生きづらい状況にあり、それは社会の中で主体となりにくい女性の問題とも共通することを再認識しました。

これから先もLGBTに対する理解を多くの人にしてもらえるよう、そして誰もが多様な生き方を選択できる社会づくりの一步に繋がるように情報発信していきたいと思えます。



労働問題

図書情報ステーション

社会問題となっている「長時間労働」は、日本社会に大きな影響を及ぼしています。報道等でもよく取り上げられている「労働問題」について、考えてみませんか？



過労死サバイバル 仕事ストレスが心身を蝕む前に
上畑鉄之丞 著 中央法規出版 2007年
医師として過労死、過労自死の問題に取り組んできた著者が、労災の多くの事例から過労死に至る理由を探る。国や企業がとるべき対策とともに、自分で出来る予防法やチェックポイントを示しています。

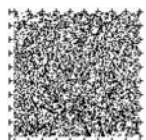
ブラック企業に負けないリーガル・リテラシー

労働法と学ぶ「自覚」のキャリア 中島剛 著 萌書房 2016年
これから社会にでて職業キャリアを築いていこうとしている人、あるいは、とりあえず正社員になりたいと強く考えている人は、就職活動をする前に読んでみてはいかがでしょうか？
労働法の枠組みの中で、将来のかけがえのない人生をとらえ直すことを後押しするために書かれた本です。



労働法実務解説 6

女性労働・パート労働・派遣労働
宮里邦夫・古田典子・秦 雅子 著 旬報社 2016年
自分の働き方に悩んでいる人に読んでほしい一冊です。
性差別・雇用差別をなくすために、第一線の弁護士が最新の法律と裁判例で幅広く解説した本です。



●編集・発行●
平成28年12月
久留米市男女平等推進センター

〒830-0037
久留米市諏訪野町1830-6
え〜るピア久留米内
TEL. 0942-30-7800
FAX. 0942-30-7811
URL. <http://www.city.kurume.fukuoka.jp>
E-mail. danjo-c@city.kurume.fukuoka.jp

■徒歩／西鉄久留米駅から約10分(約700m)
■バス／西鉄久留米駅から約5分
JR久留米駅から約20分
「税務署前」下車、徒歩3分
■駐車場(有料)はございますが、おいての際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

この会報誌は環境に配慮し、再生紙を使用しています。